令和４年度 日本大学習志野高等学校　自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

日本大学の建学の精神にもとづき，全人的教育を施し，国家及び社会に有為な人材の育成を教育目的としている。この教育目的を達成するために，

１．自主創造の精神の育成

２．高い理想と真剣な学習態度の育成

３．知育・徳育・体育の調和的育成

を教育目標に掲げ，生徒一人一人が明るくのびやかな学校生活を送り，自主創造の精神を兼ね備えた人間性豊かな生徒の育成を目指している。さらに日本大学教育憲章に定める自主創造の教育理念の下に，自ら学ぶ，自ら考える，自ら道をひらくことができる，協働力を持った生徒の育成を目指している。

〔本校の特長〕

本校は，理工学部の併設校であり，広大な大学のキャンパスの中に学校があるという極めて恵まれた教育環境を有している。進路の多様化に対応したコースとカリキュラムを有し，理工学部との高大連携教育が実践されていることを特長とし，生徒一人一人が明るく伸び伸びと文武両道の学校生活を過ごしている。

〔本校の課題〕

・理工学部の併設校としての高い教育力を更に発信していく。

・キャリア教育の充実を図り，生徒の学習意欲を高め進路希望が達成できるように教育環境を整える。

・各コースの充実を図るとともに，日本大学進学者の増加に向けての指導を推進していく。

・2019年度入学生から iPad を学用品として採用し，タブレット端末と各教室に設置された電子黒板を用いて能動的かつ主体的に考える能力を伸ばす授業を進めるなど，ＩＣＴ教育の推進を更に充実させる。

・2019年度入試から新設したスポーツ推薦入試（剣道）を軌道に乗せ，入学した生徒の技能の向上を図り，剣道部だけでなく，全部活動の活性化を図る。

・国際社会に対応できるグローバル人材の育成を図る教育を推進していく。

・若手教員に対する育成プログラムを充実させていく。

・安定的な財源を確保しつつも募集定員を遵守し，適正な人数の入学者数の確保に努め，経費の削減を推し進める。

・2021 年度から大学入学共通テスト及び 2022 年度から新学習指導要領がスタートしており，今後も情報を適切に収集し，高大接続を含めた効果的なカリキュラムや授業の在り方を検討する。

令和４年度の取組結果

〔概況〕

前年度の結果を踏まえ，学校全体で取組目標に向き合った結果，各部署ともにおおむね良好な取組結果・進捗状況を得ることができた。今後も「教員自己点検」等を活用し，ＰＤＣＡサイクルを構築して，あらゆることに対して常に改善の意識を持つことができるようにしていく。

教育活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
「新学習指導要領」，「高大接続改革」への対応	・今年度より学力の３要素「観点別評価」が始まった。学校目標から生徒の資質・能力を伸ばすために昨年度「10 の力」（①「知力・学力」②「課題対応力」③「論理的思考力」④「原因分析力」⑤「傾聴力」⑥「受信・発信力」⑦「協働力」⑧「行動力」⑨「自己管理能力」⑩「自己実現力」）を設定した。この「10 の力」と学力の３要素「観点別評価の３項目」との関係を新たなシラバスにま	B

	とめることで，生徒が何を学び，何につながるのかをより具体的に示せるようになった。 ・新学習指導要領に向けて成績評価基準の見直しを行い，不要となった箇所の削除を行うとともに，新たに学校設定教科として新設される「ＣＳＴ」の各科目についても成績評価基準を作成した。 ・日本大学との「高大接続」については，本校には２年生からＣＳＴ（日本大学理工学部進学）コースが設置され，理工学部との高大接続教育を進めている。３年時のＭＵ（モチベーションアップ）プログラムとして 12 月に「活動内容発表会」を行っている。理工学部の進学希望学科に出向き，学科独自の活動を大学の教員の指導の下で１年間取組んだ内容を発表する。	

学校生活への配慮

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ防止のための取組	いじめ防止対策推進法に基づく「日本大学はいじめを絶対に許しません！」のリーフレットの理解と実践。いじめの早期発見・対応，保護者との連携協力等，組織的な対応により，実態を伴ういじめ案件にまで拡大することがなかった。	A
多様化する生徒への適切な指導	生活環境の変化に伴う生活指導要綱の変更，男女ジェンダーへの理解，新型コロナ後遺症の生徒への対応等，一人一人に寄り添う指導を心掛けた。	A
生活環境の美化	昇降口・自転車駐輪場の使用方法，校舎内・外の清掃について合理的な指導で対応した結果，生活環境に乱れはなかった。	A

課外活動

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
学校行事の円滑な実施（通常どおりの行事に近付けるように工夫する）	・文化祭や体育祭など学校行事を従来に近付ける形で実施できた。さらに，本年度は保護者の参観を認めた。 ・昼食時間を外して学校行事を運営することで，感染症対策とした。 ・福祉委員会で総額 71,554 円の募金を行った。（赤い羽根共同募金と制服リサイクルの総計）昨年度 55,660 円よりも募金額は上回った。 ・「部活動参加に関するガイドライン」を 20 訂版に至るまで改訂を重ねた。それをＨＰ等で保護者に周知した。 ・部活動の部員が部活参加に際して「健康観察表」の記入を継続した。 ・外部から来校者に非接触の体温計での検温を継続した。	A
学校行事の円滑な移動（継続）	在校性・新入生共に４月のガイダンスや文化祭の説明時などを使って，文化祭と体育祭の日程が交代する形で変更になる旨を伝えた。	A

進路指導

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学への進学者数の増加に向けた取組や情報の発信は，教員と生徒と保護者の３者に向けて行っている。 【生徒に対する啓発活動】 １学年 ・平成 29 年度から１年生全員がバスに分乗し日本大学の希望する原則２学部を訪問する日本大学学部見学会を継続実施してきたがコロナ禍のため今年度も	B

	昨年度に引き続き中止となった。本年はオンライン説明会を通して新しく近代的な設備と長い伝統やハイレベルな研究の一端を垣間見ることができた。 ・９月には対面方式で青木義男理工学部長による講演を実施した。 ・８月に行われる理工学部のオープンキャンパスには毎年１年生の 90%の生徒が参加している。本年は実際に理工学部を見学することで興味関心が更に高まった。 ・日本大学理工学部の教員を招き，化学実験教室を１年間に数回実施し興味関心を高めた。 ２学年 ・オンライン学年集会で日本大学の学校推薦型選抜（付属高等学校等）制度について詳細に説明し進学を希望する学部学科に必要な学力養成を促した。 ３学年 ・７月に日本大学推薦入試説明会をロングホームルームの時間に実施した。 ・外部業者を招いての基礎学力到達度テスト対策講習を開始し，基礎学力到達度テストを利用した日本大学への進学を強力にバックアップした。８月には同業者による４教科のオンライン基礎学力到達度テスト対策講座を行った。 ・１・２・３年生共に説明会に積極的に参加した。このように生徒たちは早い時期から日本大学進学に目を向けている。 【保護者に対する啓発活動】 ・進路担当から保護者に日本大学を理解していただくために１年生進路指導説明会・２年生進路指導説明会・３年生保護者会で日本大学の学校推薦型選抜（付属高等学校等）制度について説明を行った。 ・各担任は８月と 12 月に実施された学期末の三者面談を通し保護者に日本大学の魅力を理解していただいている。 【教員に対する啓発活動】 ・日本大学の卒業生である教員は多いが，自分の出身学部以外の他学部の研究や就職の詳細は知らない。さらに卒業後に時間が経ち，カリキュラムや設備など多くのことが変わっている。そこで日本大学の各学部説明会に教員が参加し，日本大学を学び，再認識することでクラス担任から生徒に情報が伝達できた。	
各コースの充実	【ＧＡコース】 ・日本大学も含めた私立大学への進学を目標としたコースとなる。 ・広く生徒の志望を実現するために，大学入試や各学部・学科の研究内容に関する情報等を発信した。具体的には関連 Web サイトの紹介や情報誌の教室及びコモンスペースへの設置等，少しでも生徒の目に触れる機会が多くなるように心掛けた。 ・現在入試方式が多岐にわたっているため，モチベーションを維持して第１志望への進学を実現させるために，担任との面談の時間を作れるよう学校側に働きかけた。指定校推薦を希望することのできるコースであるため，３年の夏以降は安易に指定校推薦で「入れる大学」を選択してしまいがちであるが，３年担任のフォローによりそういった選択をする生徒が少なかった。 【ＮＰコース】 ・国公立大学への進学を目標とするコースになる。放課後の国公立コース在籍生徒のために，外部予備校講師を招いての講座（ＮＰＹ講座）の開講や，代々木	B

	ゼミナールの講師を招いての受験講演など，そのサポートに関する取組は手厚いと感じている。 ・進学面談の時間を確保することにより，生徒の進学に関する悩みにも担任がきめ細かく対応できるようになっている。３年では他のコースが進路を決定していく時期になると精神的に不安定になる生徒が出てくることがあるが，その点に関しても担任がしっかりと保護者との連絡を密に取りながらフォローしているため，ある程度安定した精神状態で受験期を迎えることができている。 【ＣＳＴコース】 ・２年生進級の段階で本学理工学部への進学を決定することになるため，１年生で希望を出す段階で担任との密な相談が不可欠なコースとなる。しかし，しっかりとした二者面談や三者面談を実施しているおかげで大きなトラブルもなく運営できている。２年の段階で理工学部 14 学科を全て見学し，実際に各学科の教員から詳細な説明を伺うことができるため，３年生で自身の希望学科を決定する時点でもミスマッチが生じることがない。本校のＣＳＴコースの各クラス担任はもちろんのこと，理工学部の各学科の教員の綿密な対応のおかげで，ＣＳＴコースに在籍する生徒とその保護者の満足感も非常に高いものがある。	

保健衛生

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒の健康管理・保持増進の充実	・定期健康診断を適切に実施し,その結果を本人・保護者へ伝えた。事後措置の必要な生徒については,保健指導を行った。 ・メンタル面での保健室での来室や相談が急増したため,生徒相談室（スクールカウンセラー）や担任,管理職等関係者と連携を取り,生徒支援を行った。 ・自己点検・評価においても「Ｑ５−６保健室や生徒相談室は生徒が利用しやすいようになっているか」に対して 88.6%が「よくできている」「できている」との回答があり,「開かれた保健室・生徒相談室」との認識が定着している。ただし,昨年の 96.１%から減少に転じた理由としては,家族関係や生徒本人が抱えている問題が重度であり,結果として長時間または頻回来室による「保健室登校状態」が特定の複数の生徒がいたために,常に保健室が生徒であふれているように感じられたからだと分析している。一部の教員から「本当に保健室を必要としている生徒が利用できない」という偏った認識による発言が聞かれたが,長時間・頻回来室の生徒こそ保健室及び養護教諭のケアと保健指導を最も必要としている生徒であることを忘れてはならない。自傷行為や教室にいることに困難を感じる生徒が,安心して自分の存在を認めてもらえると感じる場を提供できたと自負している。 ・学校管理下での疾病傷害時における適切な対応と関係者への連絡,災害共済給付の案内と手続は適正に行われた。学校自己点検・評価では「Ｑ５−３生徒の健康状態や疾病状況を把握し,家庭との連携が図られているか」では,昨年同様 98.１%が「よくできている」「できている」との回答が得られた。 ・新型コロナウイルス等の感染症対策としては,以下の取組を行った。 全教室の換気の徹底・教室内外の消毒/教室や廊下,トイレなどに啓発ポスターの掲示，教室・昇降口に手指消毒液の設置，体温及び体調についての毎日の記録と報告指導，体調不良者に対しての個別保健指導，保健だよりや Classi を	A

	活用した健康情報の発信。 学校自己点検・評価では「Ｑ５－４時季に応じた疾病についての情報提供や予防対策は十分に取られているか」では 94.2%が「よくできている」「できている」との回答が得られた。	
教職員の健康管理・保持増進の充実	・健康診断の結果に基づき,産業医の指示の下,衛生管理者（養護教諭）による保健指導及び産業医面談を実施した。特にメンタル面で不調を訴える教職員が若干増加したため,衛生管理者より管理職に適切に情報提供を行い,産業医意見書を基に教職員の健康に配慮した職場環境になるよう調整を行った。 ・専任及び非常勤講師の健康診断の受診率は 100%となり,再検査や精密検査についても,衛生管理者からの連絡を密に行ったところ,受診率が向上した。	A
安全教育の充実	・運動部所属医療系進学希望１年の福祉委員の生徒を中心に保健衛生部が主体となり,実習を含めた救命講習を年２回実施した。救命講習前後で行うアンケートによれば,講習を受ける前と受けた後では,意識・知識共に大きな変化があることが明確となり,救命講習の意義が確認できた。バイスタンダーとして緊急時にその場に居合わせることになった場合,救命のリーダーシップを取れるような生徒の育成を目指している。 ・新規採用及び希望する教職員は,上記の生徒向けの救命講習のほか,日本光電より講師を招いて「ＡＥＤ講習会」を実施している。昨年までは開催時期が２学期の中間試験であったが，保健衛生部の教員の提案を受け，年度の早い時期に実施した。教職員研修などに組み込んで,新規採用者以外の教職員の参加をいかに促していくかが,喫緊の検討課題である。	B

図書

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
図書の利用の促進	・図書委員による推薦図書の選定及びその推薦文をまとめた機関誌「渡書」を発行（年３回）することによって，図書委員の積極的な図書室利用及び生徒への図書室利用を活性化することができた。また，６月の文化祭では昨年同様図書委員による推薦図書の展示，紹介動画を公開し，11 月と２月にはビブリオバトルを行うなど生徒の読書意欲を向上させる活動を行うことができた。さらにビブリオバトルを今年から２階生徒ラウンジで行うことで，開かれた行事にし，参加していない生徒にも興味関心を抱いてもらうことに成功した。昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響によって図書委員生徒による日常的な図書室カウンター業務は控えざるを得なかったが，諸活動を通して生徒の図書資料活用を促進することができた。 ・本年度から「見本展示会」（11 月４日実施）に図書委員の生徒にも参加してもらい，生徒目線で新刊図書を選んでもらった。参加した生徒たちは楽しみながら選書を行うことで，主体的な読書意識を育成することができた。また，多数の教員の協力も得て選書の充実を図ることができた。 ・「電子図書館」の使用法や新刊図書を，タブレットを通して生徒に伝達することで，長期休業中なども積極的な読書活動を行える環境を提供することができた。	A
研究紀要の継続的発行	教員の資質の向上及び専門領域の拡充のため，２年～３年に一度のペースで発行できるよう提言し，次年度に刊行できるよう，執筆を募る呼び掛けを行った。	A

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒募集の強化	・ガイドブックの制作を前年度から開始し，６月から配布ができた。通学圏内の塾や中学校へは郵送，また７月から参加している進学フェアでも配布ができた。 ・志願者数増を目標に，入試改革の検討を継続している。令和５年度入試については，検討中のため前年度と変更なしで進め，志願者数はほぼ横ばいであった。 ・Instagram の公式アカウントの開設ができなかった。	B
Web サイトの部活動ブログの活性化	・４月から Web サイトトップページに，部活動ブログ新着４件まで掲載できるように改良した。 ・部活動ブログが更新されたことを，共有する呼び掛けについては工夫できなかった。	C

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
顧問教員の負担軽減部活動の活性化	2019 年度（令和元年度）から野球部において，競技スポーツ部の学生を試行的に指導者として招請した。野球部での定着を図り，顧問教員の負担軽減と部活動の活性化につなげる予定であったが，新型コロナウイルス感染症の影響で，2020 年度から実施できていない。	D
適正な労働時間の管理	・36 労使間協定（作成された変形労働時間表）に基づき，適正な労働時間の管理に努め，職場環境の改善を図った。また「変形労働時間制に関する申し合わせ」を労働代表者と協議し，その適正運用に努めることができた。	A

※【Ａ達成できた，Ｂ大体達成できた，Ｃあまり達成できなかった，Ｄ達成できなかった】

新型コロナウイルス感染症に関する対応と今後の課題について

（教務）

・オンライン授業に関することについて，今年度は全ての授業を対面で行ったが，昨年度までに学習した動画作成の技術を活用して，ＩＣＴ機器を用いての工夫した授業も展開されている。今後の課題は，授業でタブレット端末を使用することで生徒の情報活用能力も高まっているように感じる面もあるが，更なる活用が今後の課題となる。

・感染症対策として，授業を休んだ生徒に対して，この３年間学習支援を続けている。特に今年度はコロナ関連の欠席者に対して，授業動画や授業プリント内容をまとめたもの，板書の内容等をタブレット端末のアプリソフトを利用して配信している。この配信により自宅でも学習できる体制を整えている。今後の課題は，配信した内容を生徒がどのように取り組んだのか学習状況を把握することなどが挙げられる。欠席者の学習状況は登校後に生徒に声を掛け確認しているのが現状である。

・学校行事について，基本的には実施できる形態に変更するなど工夫をして学校行事全てを行ってきた。文化祭では２年間来校者なしで行ってきたが，今年度は感染症対策を講じた上で保護者の来校を認め実施した。また同じく２年間実施できなかった「公開授業」を前期・後期と２回行うことができた。保護者の来校を各家庭１名としていたが前期は６割を超える来校者があった。２年間できなかったこともあり，以前実施していた時と比べると３年生の保護者も多く来校していた。教務部としては，保護者に来校いただく行事については，保護者の立場での行事内容・参加等を考え企画していきたい。

（生活指導）

・通学途中・学校内・教室において，原則マスク着用，手指消毒，大声を出さない，密にならない等の新型コロ

ナ感染防止を注意喚起した。生徒一斉説明については動画配信・YouTube 形式など，ＩＣＴを活用することで代替した。部活動のために休日登校する生徒の服装条件を緩和し，新型コロナ対策に努めた。

（生徒会）

・「部活動に関する学校ガイドライン」を作成し，生徒のみならず保護者への情報の周知を得て部活動を行っている。このガイドラインは国や県などの通達が出るたびに改訂している。目下のところ，20 訂版となっている。

・文化祭においては活動時間の短縮，食事なしで帰宅，各団体に消毒液の配布などの実施に当たっての準備をした。

・文化祭参加団体は感染対策を講じた団体に参加許可を出す方策を取った。

・体育祭においても時間短縮，食事なし，使用用具の消毒又は手袋をして参加した。

・体育祭では出場種目を精査し，三密を避ける新たな種目も行った。

・グランドでは周囲１ｍ以上の間隔をおいて椅子を並べて，大声を出さずに，着席したままの応援を求めた。

・本年度は文化祭・体育祭において保護者の参観を認めた。生徒や保護者は高い意識をもって対応してきた実績を基に，今後は更に文化祭・体育祭をより活発に行えるようにしていきたい。その際には，目下，浸透しているマスク着用や黙食等を急激に変えることなく実施することが肝要であると考える。

・前年度に引き続き文化祭体育館の団体を視聴覚教室で観覧できるようにしたが，著作権などの問題のため，作成したビデオ配信は限定的なものとなった。本校ＨＰに常駐できるようになれば保護者や卒業生さらに受験生にも資することとなる。

・「部活動参加にあたってのガイドライン」の継続と遵守。また各部活で実施している「健康観察表」の記入は様子を見ながらしばらくの間，継続していくことが肝要であると考える。

（進路）

・今年度も各大学の説明会が「対面」ではなく「オンライン」で実施されることが多かったが，大過なく対応ができた。また各種試験（大学入学共通テストや一般選抜等）でも対応が求められていたが，生徒たちもコロナ禍での生活に慣れているため，特段の問題が生じることはなかった。

（保健衛生）

・全教室の換気の徹底・教室内外の消毒，教室や廊下，トイレなどに啓発ポスターの掲示，教室・昇降口に手指消毒液の設置，体温及び体調についての毎日の記録と報告指導，体調不良者に対しての個別保健指導，保健だよりや Classi を活用した健康情報の発信。

・新型コロナウイルス（オミクロン株）が終息する目途は立っていないが，コロナ前の教育活動を取り戻すべく，保健衛生部としても流行状況に注視しながら，生徒健康診断や校内献血，救命講習（ＰＵＳＨ）を積極的に行っていきたい。また，部活動やクラスでの集団感染が見られた際には，管理職，学校医と相談の上，迅速に対応していく。

（図書）

・図書室はカウンター受付のみとし，生徒の開架式書架への立入りを禁止して直接図書に触れさせないようにした。閲覧・自習室は席数を 70 席から 35 席に半減して間隔をおいて配置し，開室時間帯には換気のために窓を開放した。感染予防策としては，入口付近消毒液の設置，利用生徒のクラス・氏名・入室時刻・退出時刻の記載並びにマスク着用の義務付け，カウンター・閲覧席のこまめな消毒，アクリル製遮蔽板のカウンターへの設置，貸出図書のポスト返却，返却後の図書の消毒などを実施した。

・文化祭での企画展示，ビブリオバトルなど図書に関する行事の際には，ソーシャルディスタンスに配慮し，マスクを着用するなど感染防止に努めた。また，芸術鑑賞会では退場の際には，座席のアルコール消毒を行い，時間を空けて分散退場するなどの配慮をした。

・ここ数年，感染症や読書意欲の低下からか，貸出数が伸び悩んでいるため，ビブリオバトルや推薦図書紹介などの企画を通して，生徒の図書利用の促進を図った。特にビブリオバトルは感染防止に配慮しながらも，生徒

ラウンジで行ったことで，参加する生徒のみならず，多くの生徒に読書活動をアピールできた。今後もこういった文化活動をさらに発展させていき，普段から読書をし，教養を身につけることを自然に行える生徒を育んでいきたい。本校図書室の収蔵数には限りがあるため，電子図書館のコンテンツを更に充実させていきたい。また，新刊図書の見本展示会に生徒を参加させ，図書室の蔵書選びを生徒自ら主体的に行う機会を作りたい。

（広報）

・３年ぶりに，大学スポーツホールでの約 1,000 人規模の学校説明会を２回実施できた。予約受付票に健康チェック欄を設け，そこに当日の健康状態を記入していただけるように対応した。学校説明会以外の見学会３回も同様の対応をした。

・説明会や見学会において，受験生１名・保護者１名の２名までという人数制限を設け，他の参加者とは１席空席を設けるように座席配置・誘導を実践した。

・新入生ガイダンスは，コロナ禍以降，動画配信に切り替えて実施している。来校型のときには，中学校の卒業式と日程が重なって出席できないなどの連絡があったが，動画配信では期間中の都合の良いときに視聴できるため，出席できない場合の相談はなくなった。中学まで海外日本人学校に在籍している場合も，この時期に戻っていない生徒がおり，海外からも視聴ができるため好評である。

・今後は，感染症対策を講じて，コロナ禍前のような規模の説明会を実施していきたい。なぜならば，多くの受験生・保護者に，実際に本校に足を運んで高校生活を想像してもらいたいからである。そうすることによって，高校選択のミスマッチがなくなり，入学後も充実した３年間になると考えている。

（ＩＣＴ教育推進委員会）

・2019 年度（令和元年度）入学生より，生徒一人１台の iPad を配布し，ＩＣＴ教育を行っている。あわせて，Web 会議システム「Zoom」のアカウントを付与し，オンライン授業にも対応できるよう，環境を整えている。

・学校全体でのオンライン授業には対応できるようになったが，生徒個々への対応が十分でない（例えば，新型コロナウイルスに感染した生徒及び濃厚接触者として自宅待機している生徒などが自宅で授業をリアルタイムで受けられる体制は整っていない）。

（ネットワーク係）

・オンライン授業実施や授業のデジタル化に伴う校内ネットワーク通信量の増大に対応すべく，各種ネットワーク機器，スイッチングハブやルータ，Wi-Fi アクセスポイント等の校内インフラ設備のメンテナンスや状況把握を適切に行えるよう，機器の経年劣化対応や故障時対応をスムーズに行えるよう，ネットワーク係各委員や事務，サポート会社との連絡をこまめに取り合えるよう，定期的な連絡相談会議の場を設けるようにした。授業時では生徒・教員共に一人１台の iPad を用いてクラウドを経由したリアルタイム連携ソフトを日常的に使用しており(Google Education 各種アプリ，MetaMoJi Classroom，Classi，スタディサプリ等)，授業内での調べ学習や教育活動においてネットワーク通信とＩＣＴ機器の利用は必要不可欠なものとなった。生徒・教員がストレスなく円滑に教育活動を行えるよう，適切なＩＣＴ機器やネットワークインフラに関するサポート体制を継続して構築するとともに，将来的に生じる各種ＩＣＴ機器の経年劣化による故障を見据えた大規模メンテナンス・工事予算の確保と，予想外に生じる突発的な機器故障やネットワーク障害に対する対応マニュアルの精査が必要である。

令和５年度の取組目標及び方策

教育活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
新学習指導要領を踏まえた上での授業・評価の改善	・各教科の成績評価において，各学期末の成績は定期試験の「得点成績」と個々の生徒の学習意欲・学習状態・授業理解度や学習到達度を評価し「平常点」とし，その合算をもって総合評価している。	・授業改善は基本毎日 ・観点別評価は学期ごと ・振り返りなどは定期試験ごと

	・令和４年度より開始となる観点別評価については，①知識及び技能，②思考力，判断力，表現力については，定期試験（設問を工夫）や小テスト等を中心に評価している。③主体的に学習に取り組む態度については，平常点（提出物，課題等への取組，出席の状況，振り返りなど）で評価をしている。これらの評価を各教科（科目）で検討し改善点があれば改善し次年度に生かしていく。 ・新１年生より，ポートフォリオとして各定期試験において「試験前の目標・その達成に向けた取り組み」「試験終了後の感想・目標に対する自己分析」「成績を受け取ってからの各教科に対する具体的な反省・改善」及び試験アンケートの結果を受けての自己評価も行っている。	
生徒による授業評価アンケート結果に基づく授業改善	「生徒による授業評価アンケート」の結果を踏まえ，評価を謙虚に受け止め，改めるべき点は改善し実施している。アンケート結果から報告書を作成し，教員一人一人が今後の改善の指標として活用している。	・２学期（10 月）にアンケートを実施 ・アンケート結果後に報告書を作成（12 月）し３学期より改善していく。
「高大接続改革」への対応	本校には２年生からＣＳＴコースが設置され，理工学部との高大接続教育を進めている。そのＣＳＴコースの生徒たちは，３年時にＭＵ（モチベーションアップ）プログラムの一環として 12 月に「活動内容発表会」を行っている。理工学部の進学希望学科に出向き，学科独自の活動を大学の教員の指導の下で１年間取り組んだ内容を発表する。高校生のうちから大学で研究活動に励み，プロジェクターやポスターを使ったものや実演を交えた研究発表を実施している。	・１学年全生徒対象に理工学部長よる理工学部説明会を実施。 ・１年生希望者対象に学科説明会を実施。 ・２年生より２年間 CSTMU プログラムを実施。

学校生活への配慮

取組目標	取組方策	取組スケジュール
いじめ防止のための取組	「いじめ」の定義について理解を深め，全教職員間で適切な指導ができるようにしていく。	・年度初めの業務打合せにおいて全教職員に説明し，「いじめ」の本質を共有する。
校則の改正	令和４年度生徒指導提要の改訂に基づき，その理念にのっとった校則に改正していく。	・生活指導部会，部署主任会議，教職員会議と段階を追いながら議論を進める。短期間・数回で終わることなく，同じ内容でも慎重に回数を重ねて議論を進める。

課外活動

取組目標	取組方策	取組スケジュール
学校行事の円滑な実施（通常どおりの行事に近付けるように工夫する）	・今年度の状況を基に，生徒ができる限り従来どおりの学校行事を経験できるように努める。 ・来年度の文化祭は２学期実施となるので，文化祭の出し物の質を向上するように努める。	・コロナ前と後の学校行事の状況を分析し，どこまで従来どおりに戻せるか議論を重ねる。 ・生徒への学校行事日程の周知及び日程変更における課題を教員から示す。
地域活動への参加	・ボランティア活動や交流活動を積極的に行う。 ・学校周辺の地域団体（町内会や商店街など）との連絡を密にしていく。	・最初に生徒会運営委員会の生徒が地域活動に参加し，その経験を基に，他の生徒（部活動を中心に）へ参加範囲を拡げていく。

進路指導

取組目標	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	・各学部訪問を行う。 ・日本大学付属高等学校等基礎学力到達度テストに関する情報の周知及び対策講座等の開講。	・コロナ前に実施していた 1 年生校外学習を復活できるように各学部に相談する。 ・進路指導部及び学年が連携し，対面・オンラインを使って，例年以上に情報周知や講座等の回数を増やす。
第１志望合格への実現	・指定校推薦リストの１・２年生への開示の中止 ・家庭学習及び自学習の習慣定着のためリクルートスタディサプリの徹底的活用 ・進路講演会等の複数回実施	・「進路のしおり」から「指定校推薦リスト」ページの削除。 ・紙ベースのテキストの購入及びリクルート社員からの教員・生徒に対する効果的利用方法のレクチャーを実施。 ・ベネッセ・代ゼミ・リクルート等の外部業者への講演を増やす。

保健衛生

取組目標	取組方策	取組スケジュール
教職員の健康管理の充実	・健康診断の受診率の向上 ・再検査・精密検査の受診率の向上 ・感染症予防の取組	・ 引き続き受診率 100%を目指し，年度の早い段階で全員が受診できるように周知する。例年，受診が遅い及び数値が芳しくない教職員に対しては密に連絡を取り，指導する。 ・ 学校医，産業医の協力を仰ぎ，

		校内での予防接種の実施を継続し,感染症の流行を抑制する。
相談室との連携	メンタルケアの充実	・ ＳＣと養護教諭,関係教員で緊密な連絡を取り,生徒に関する十分な情報交換を行う。 ・ 事例検討を行い,必要に応じて本部よりスーパーバイズを受ける。

図書

取組目標	取組方策	取組スケジュール
図書の利用促進	・ビブリオバトル,文化祭発表など図書委員活動の一層の活性化を目指すとともに,図書委員以外の生徒も参加でき,読書に興味を持ってもらう行事を考えていきたい。 ・「見本展示会」の実施を継続し，本年度同様教職員に加えて図書委員生徒も参加できるようにし,生徒自身による積極的な選書の機会を提供する。 ・電子図書館のコンテンツ数をより充実させ,利用の活性化を図る。また，電子図書館の使い方を Classi などを使って生徒に周知させる。	・機関誌「渡書」の発行など図書委員による各企画を継続しながら,タブレットを使った新しい情報提供の方法を模索する。 ・「見本展示会」は２学期中に実施する。 ・図書室の蔵書数には限りがあるため,電子図書館のコンテンツは各学期を節目に順次新着のものを公開していく。
研究紀要の継続的発行	・教員の資質向上及び専門領域の拡充のため，二・三年に一度の発行を目指し,予算の申請や原稿執筆の依頼などを行っていく。	発行に向けた印刷会社との打合せを行い，執筆者からの原稿回収・誌面体裁の決定・校正などを行っていく。

広報

取組目標	取組方策	取組スケジュール
生徒募集の強化	・中学生のアピールのため,早急に Instagram の公式アカウントを開設。また，ＳＮＳを有効に利用したい。 ・入試に変更点があるため,中学生や塾へ変更点とメリットをアピールする。	・４月に Instagram 開設 ・Twitter の投稿回数を増やす。 ・募集要項完成後に塾訪問
Web サイトの活性化	・新着情報や部活動ブログで,学校の日頃の様子を伝えていく。 ・本校教員にも Web サイトで何を発信しているか,どのページに何の情報が掲載されているかに興味を持ってもらえるように工夫する。	・各行事や日頃の様子を,可能な限り多く発信。係分担していきたい。 ・校内の連絡ツールなどで，Web サイト情報を発信する。

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
適正な労働時間の管理	有休申請等において,本校独自の勤務管理システム「勤務の友」を導入し，教員の申請の煩雑な作業をなくし	「勤務の友」の改良のため，管理職，事務担当者等で打合せを

	ている。今後は更に適正な管理ができるように,「勤務の友」の改良を行う。	行い，改良点を明らかにする。

中長期的目標の取組結果

広報

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
生徒募集の強化	〔前回〕 ・取組方策：志願者数を増やすため，入試方式や入試科目について見直しを行う。 ・取組スケジュール：令和４年度に検討し，令和６年度入試（令和５年 10 月募集要項発表）に実施できるようにする。 〔今回〕 取組結果・進捗状況：入試検討委員会を前年度より多く開催していただき，令和６年度入試から一般入試において，２日間の試験の実施が実現する。これにより，1.2～1.5 倍の志願者増を願っている。また，第一志望入試においては，面接試験の導入が決定し，筆記の得点だけでなく，総合的に判断が可能になる。第一志望入試の出願基準，５教科入試の検討，現在のスポーツ推薦入試の見直しなどが検討中である。	B

管理運営

取組目標	取組結果・進捗状況	達成状況
本校 100 周年に向けての施策	〔前回〕 ・取組方策：2029 年の本校 100 周年に向け，2021 年度（令和３年度）より，立ち上げた委員会で，理工学部と相談の上，第２体育館の新設・記念誌の発行等に向けた検討を行う。 ・取組スケジュール：2024 年度までに内容をまとめる。2025 年度から本格的に始動する。 〔今回〕 取組結果・進捗状況：理工学部と相談の上，記念棟の建設・記念誌の発行等の検討を進めた。	C

※【Ａ達成できた，Ｂ大体達成できた，Ｃあまり達成できなかった，Ｄ達成できなかった】

中長期的目標及び方策

管理運営

取組目標	取組方策	取組スケジュール
本校 100 周年に向けての施策	2029 年の本校 100 周年に向け，2021 年度（令和３年度）より，立ち上げた委員会で，理工学部と相談の上，記念棟の建設・記念誌の発行等に向けた検討を行う。	2024 年度までに内容をまとめる。2025 年度から本格的に始動する。